

思いやりに視点を当てた、 道徳的価値の理解・自己理解を深める指導の工夫

— 児童の思いを引き出す役割演技を通して —

特別研修員 道徳 綿貫久美子（小学校教諭）

道徳の時間

読み物資料による
価値理解

道徳的価値の理解

役割演技

道徳的価値
理解の深まり

発言・
問い返し

自己理解の
深まり

児童の実態

- 相手の立場を理解したり、尊重したりすることへの弱さ。
- 仲の良い友達以外に対しての思いやりの不足。

実践 2年生 資料名「ぐみの木と小鳥」【学研】2-（2）思いやり、親切

手立て1： 役割演技の中の意図的な場面設定

児童にとって身近な場面を設定し、思いや考えを表現しやすくする。

空いているブランコを1年生と同時に見つけた場面
1年生：「ブランコ乗りたいなあ。ブランコ貸して。」
友達：「私たちの方が早かった気がするけど、どうする？」
児童：「1年生だから、いいよ。」



さらに、人間の弱さについて考えさせたい...

手立て2： 児童の心を揺さぶる工夫

教師が児童役になって、発言・問い返しを行い、児童の心を揺さぶる。

揺さぶり

2年生は、いつも貸さなきゃいけないの？

貸したら、休み時間が終わっちゃうよ。
乗る時間がなくなっちゃうよ。

貸してばかりは、やがてなあ。どうしよう...

そうだよな、乗る時間がなくなっちゃうかも、でも...

乗っていいよ。次の時は、貸してね。

順番に乗ろう！先に乗っていいよ。

思いやりの心を持って相手に接していこうとする児童

成果

- 低学年にとって、身近な場面を設定した役割演技は、自分事として捉えることを容易にし、道徳的価値への理解を深めることができた。
- 心を揺さぶる発言や問い返しは、人間の心の弱さについて認めながらも、思いやりを持って相手に接していこうとする気持ちを高めることに有効であった。

課題

- 教師が発言や問い返しをしながら、児童同士がやりとりする場面を設定すると、望ましい行動についてより具体的に考えられると思われる。
- 年齢や立場の異なる人々との関わり方について考えられる発言や問い返しを工夫すると、多様な人々との関わりの中でも思いやりある行動をとろうとする実践意欲を高められると考える。